



## INDEX

・ 鶏卵需給見通し（令和3年度第1回）	1
・ 畜産統計 採卵鶏の飼養動向（農林水産省）	2
・ 食料自給率（農林水産省）	6
・ 「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」導入（国税庁）	8
・ 統計データ	9
・ 協会活動報告	10

## 鶏卵需給見通し（令和3年度第1回）

日鶏協ニュース8月号では、令和3年度第1回鶏卵需給見通し検討委員会の会議内容を記事にしましたが、今回は、令和3年度第1回目の「鶏卵の需給見通し（令和3年9月）」のポイントを紹介いたします。なお、詳しくは、9月末頃に発刊予定の冊子をご覧ください（当協会WEBサイトに掲載予定）。

### 1. 最近の動向

- 2019年と比較して2020年は家計消費と加工用が増加し、業務用が減少した。
- 2020年はコロナ禍の影響を受けて外食が減少し、巣ごもり需要が定着したとみられる。
- 2020年の鶏卵生産量は前年並みである。2021年上期のひなの餌付け羽数は、変動はあるものの徐々に上昇傾向にある。
- 中国の需要の伸びと海上運賃の高騰、投機資金の作物への還流等から、当分の間飼料価格は高止まり傾向である。
- 加工用の消費は手間の掛からない調理食品等の需要が増加傾向である。
- 令和3年2月に安定基準価格を上回ってから、鶏卵相場は7月に入るまで直線的に上伸し、現時点、暑さによる需要の減退等から相場は少し落ち着いている。

### 2. 今後の需給見通しについて

- 2021年3月以降鶏卵相場が高騰したことで巣ごもり需要にも陰りが見られることから、今後の家計消費には頭打ち感がみられる。
- 飲食店向け業務用の需要は未だに厳しく、人の移動がワクチン接種により戻らないと回復は難しいと予測する。
- 今後のコロナの影響如何にもよるが、鶏卵需要は不透明で依然として厳しい状況が予測される。
- 2022年の生産については、高病原性鳥インフルエンザによる減少した生産量の回復が見込まれることから、需給の逆転が考えられ、今後さらに国内市場規模の縮小が見込まれる中、鶏卵生産が拡大し続けば、恒常的に需給失調を引き起こし、相場が長期にわたり低迷する懸念が高まる。

なお、鶏卵生産者経営安定対策事業に加入している生産者の方々には、昨年同様「鶏卵生産等に関するアンケート」を同封し、現状や今後の予定について状況報告とご意見をいただき、次回の需給見通しに反映する予定にしていますので、よろしくお願ひいたします。

【お問い合わせ】 業務第2部 Tel : 03-3297-5515



## 畜産統計 採卵鶏の飼養動向（農林水産省）

農林水産省から畜産統計（速報値）が公表されました。採卵鶏の調査結果につき概要をご紹介します。

### ■畜産統計調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/>

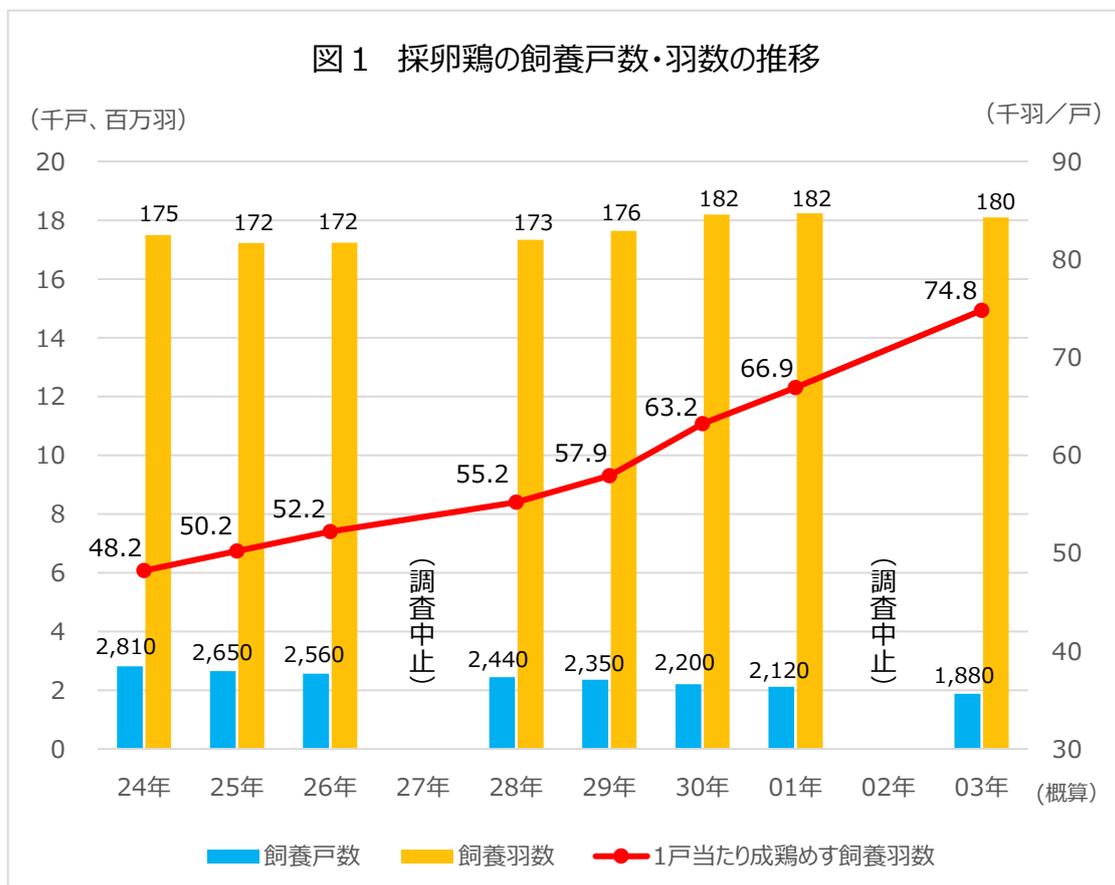
### ■農林水産統計-畜産統計（令和3年2月1日現在）

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/attach/pdf/index-8.pdf>

#### 1. 飼養戸数・羽数

採卵鶏の飼養戸数は1,880戸で、前年に比べ240戸（11.3%）減少しました。飼養羽数は1億8,091万8,000羽で、前回に比べ145万羽（0.8%）減少しました。このうち、成鶏めす（6か月齢以上）の飼養羽数は1億4,069万7,000羽で、前回に比べ109万5,000羽（0.8%）減少しました。

なお、1戸当たり成鶏めす飼養羽数は7万4,800羽となりました。





## 2. 成鶏めすの飼養羽数規模別飼養戸数・羽数

成鶏めすの飼養羽数規模別（学校などの非営利的な飼養者を除く1,700戸）にみますと、飼養戸数及び飼養羽数は、ともに前回に比べ「100,000羽以上」の階層で増加しましたが、概ね他の階層では減少しました。

なお、成鶏めす飼養羽数規模別の飼養羽数割合は、「100,000羽以上」の階層が全体の8割を占めています。

図2 成鶏めす飼養規模別飼養戸数及び構成比

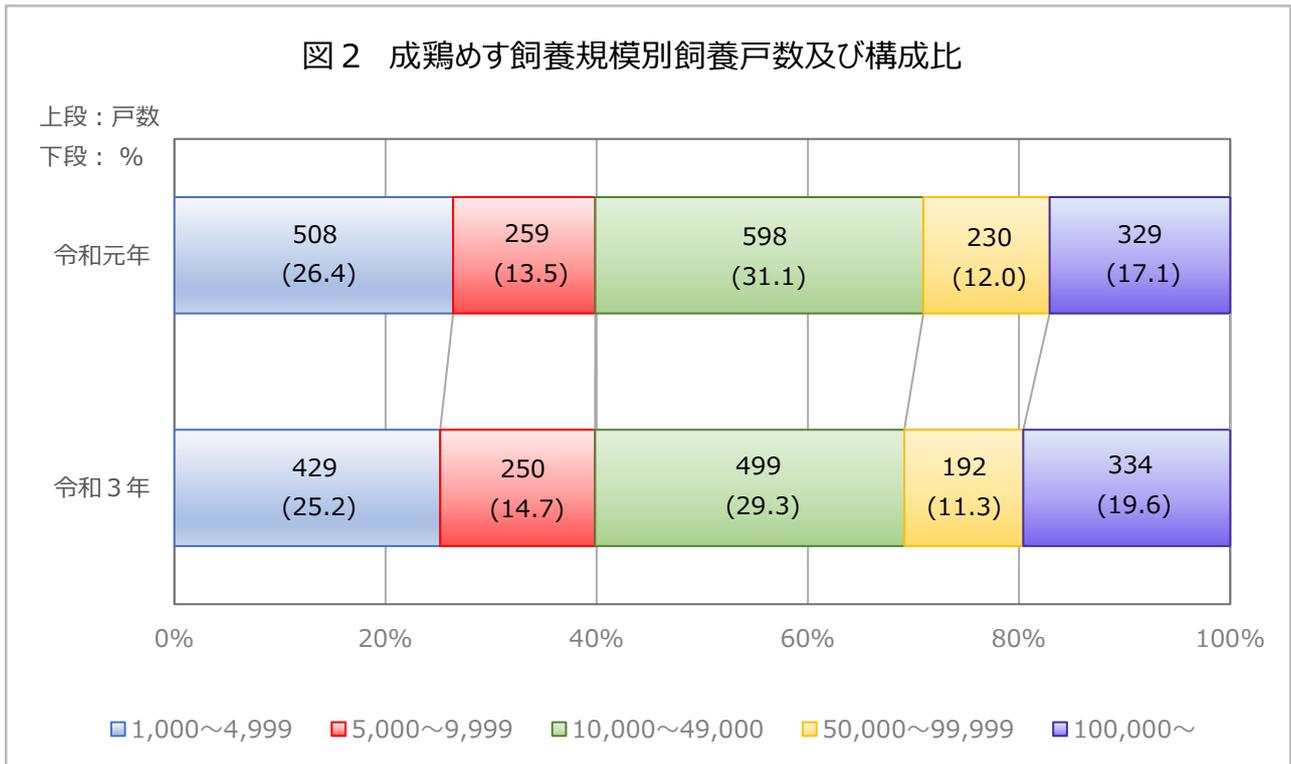
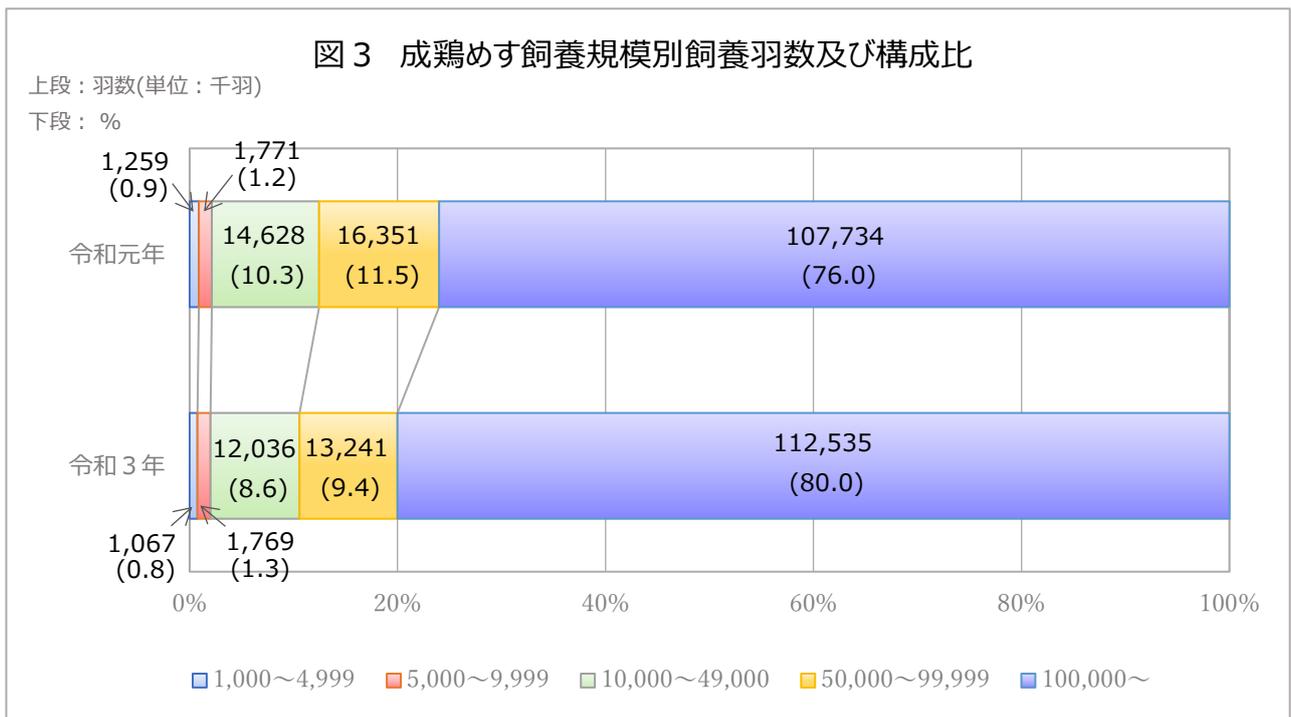


図3 成鶏めす飼養規模別飼養羽数及び構成比



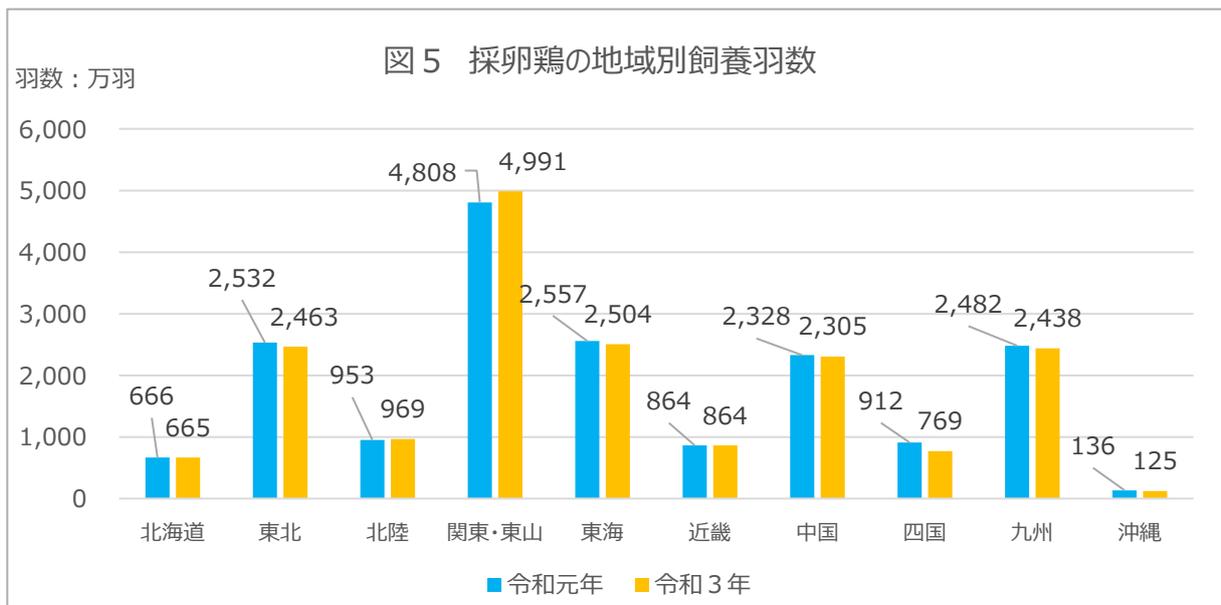
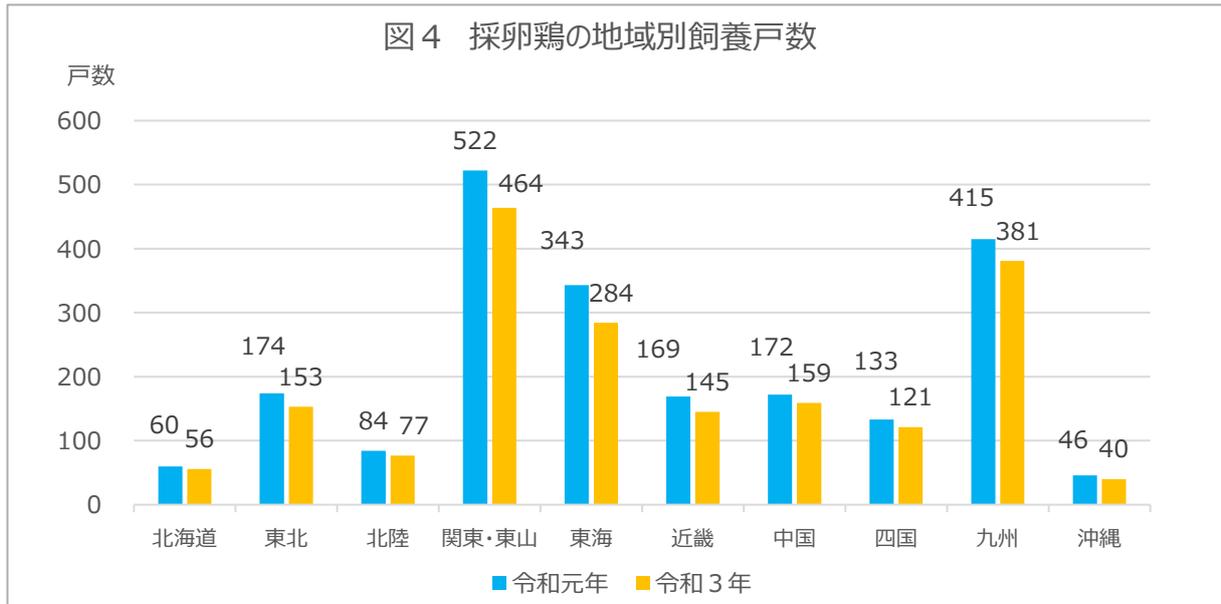


### 3. 地域別飼養戸数・飼養羽数

地域別にみますと、飼養戸数は、前回に比べて全ての地域で減少しました。

飼養羽数は、前回に比べ北陸及び関東・東山で増加したほか、近畿は前年並みとなりましたが、これら以外の地域では減少しました。

なお、地域別の飼養羽数割合は、関東・東山が全国の3割を占めています。





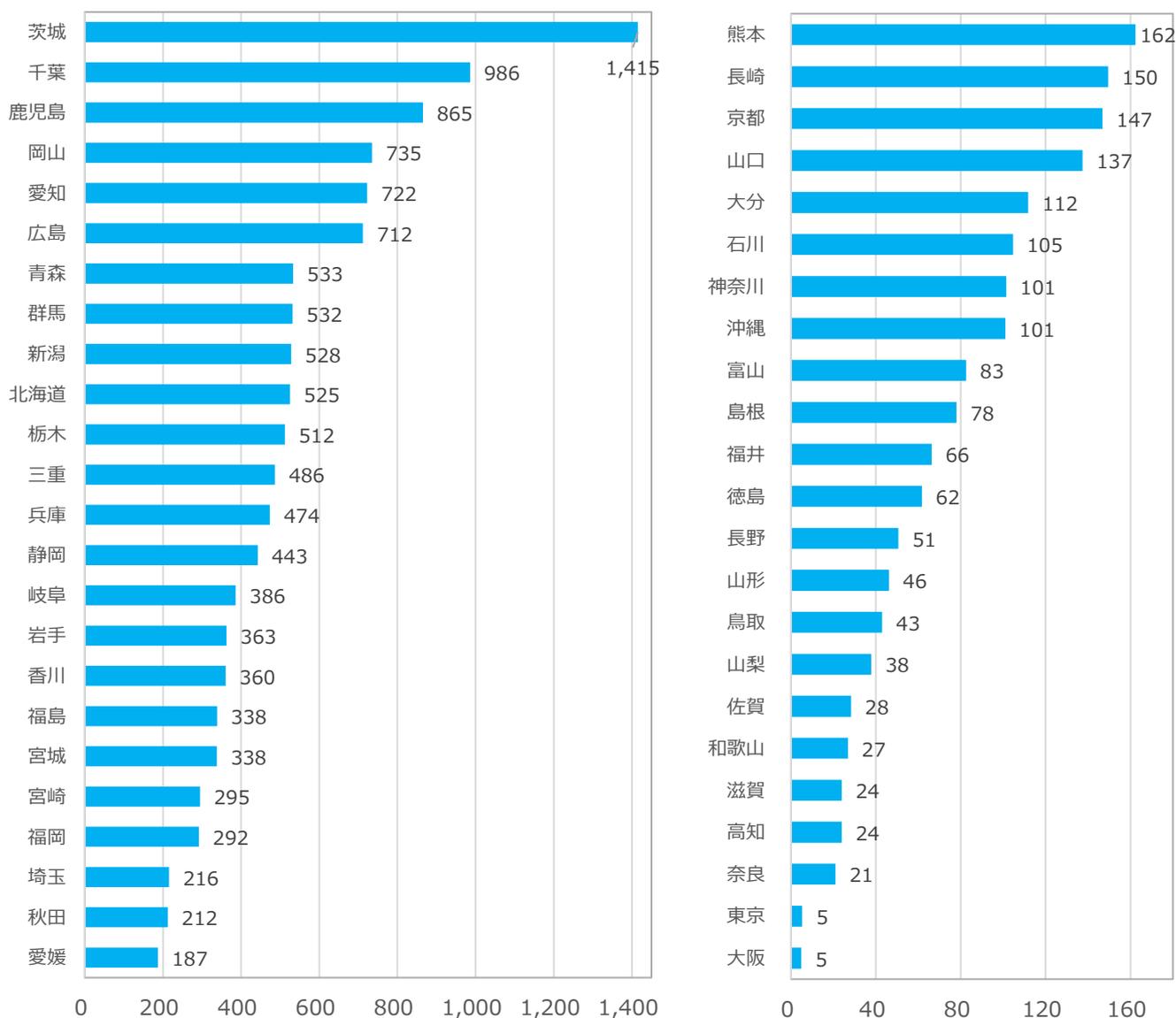
#### 4. 都道府県別成鶏めす飼養羽数

令和3年2月1日現在における都道府県別成鶏めす飼養羽数をみますと、茨城県が1,415万羽（構成比10.1%）と最も高く、2位千葉県986万羽、3位鹿児島県865万羽、4位岡山県735万羽、5位愛知県722万羽の順になっており、上位5県で全国の33.5%を、上位10道県では53.4%を占めています。

なお、前回から上位5県に変動はなく、上位10道県では新潟県が11位から9位に上がりました。

図6 都道府県別成鶏めす飼養羽数

<単位：万羽>





## 食料自給率（農林水産省）

農林水産省から[食料需給表（令和2年度：概算値）](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/) (<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>) が公表されました。鶏卵の調査結果につき概要をご紹介します。（以下、出典は同表または農林水産省 WEB サイトより）

### ■日本の食料自給率（農林水産省）

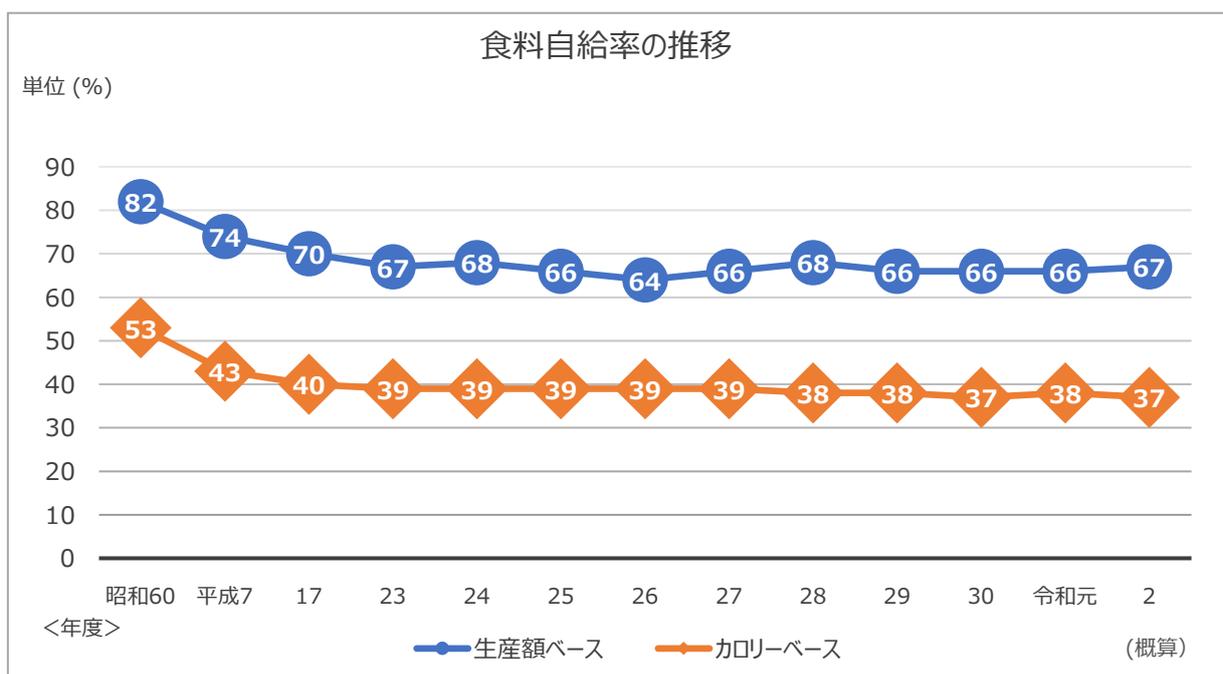
[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/012.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html)

#### 1. 食料自給率

生産額ベースの食料自給率については、豚肉、鶏肉、野菜、果実等の国内生産額が増加したこと、魚介類、牛肉、鶏肉、豚肉等の輸入額が減少したこと等により、前年度より1ポイント高い67%となりました（生産額ベース食料国産率（飼料自給率を反映しない）についても、前年度より1ポイント高い71%）。

カロリーベースの食料自給率については、原料の多くを輸入している砂糖、でん粉、油脂類等の消費が減少したものの、米の需要が長期的に減少していること、小麦が特に作柄が良かった前年に比べて単収が減少したことにより、前年度より1ポイント低い37%となりました。

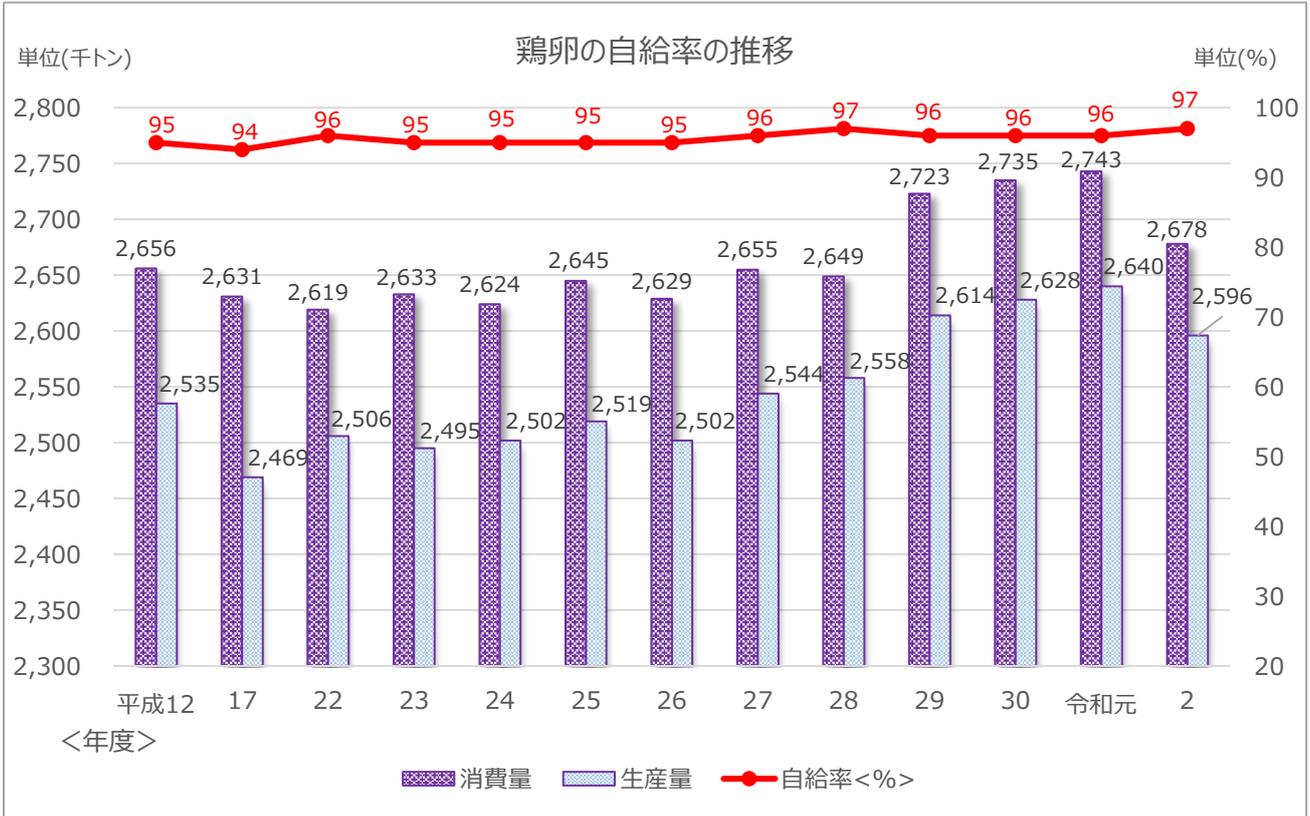
我が国の食料自給率は、自給率の高い米の消費が減少し、飼料や原料を海外に依存している畜産物や油脂類の消費量が増えてきたことから、長期的に低下傾向で推移してきましたが、カロリーベースでは近年横ばい傾向で推移しています。





## 2. 鶏卵の生産量および供給量

鶏卵の国内生産量は、前年度に比べ約1.7%減の2,596千トン、消費仕向量は約2.4%減の2,678千トンとなっています。また、鶏卵の自給率は、前年度から1%増の97%であり、長年にわたり高い自給率を維持しながら推移しています。



## 3. 食料自給率の目標

令和12年度までに、カロリーベース総合食料自給率を45%、生産額ベース総合食料自給率を75%に高める目標を掲げています。また、飼料自給率と食料国産率についても併せて目標を設定しており、飼料自給率と食料国産率の双方の向上を図りながら、食料自給率の向上を図っていきます。

### 食料・農業・農村基本計画における食料自給率等の目標

		平成30年度 (基準年度)	令和12年度 (目標年度)
法定目標	供給熱量ベースの総合食料自給率	37%	45%
	生産額ベースの総合食料自給率	66%	75%

飼料自給率	25%	34%
供給熱量ベースの総合食料国産率	46%	53%
生産額ベースの総合食料国産率	69%	79%

食料自給率等の目標は、令和2年3月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画で定められています。

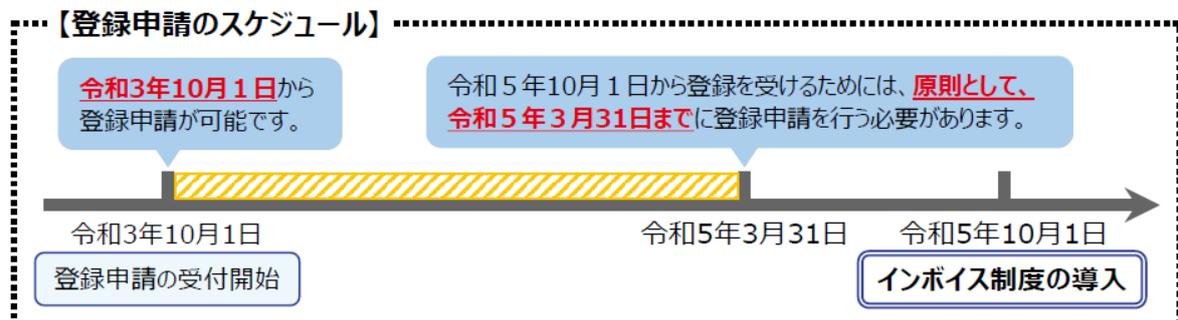


## 「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」導入（国税庁）

令和5年10月1日から、消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度が導入されます。適格請求書（インボイス）を発行できるのは、登録申請書を提出し、登録を受けた「適格請求書発行事業者」に限られます。

### 「インボイス制度」ってなに？

- 売手である登録事業者は、買手である取引相手（課税事業者）から求められたときは、インボイスを交付しなければなりません（また、交付したインボイスの写しを保存しておく必要があります）。
  - 買手は仕入税額控除の適用を受けるために、原則として取引相手（売手）である登録事業者から交付を受けたインボイス（※）の保存等が必要となります。
- （※）買手は、自らが作成した仕入明細書等のうち、一定の事項（インボイスに記載が必要な事項）が記載され取引相手の確認を受けたものを保存することで、仕入税額控除の適用を受けることもできます。



### ■ 全国どこでも参加可能なオンライン説明会

[https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice\\_setsumeikai.htm](https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_setsumeikai.htm)

### ■ インボイス制度の概要

[https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice\\_about.htm](https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_about.htm)

### ■ Q&A

[https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice\\_faq.htm](https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_faq.htm)

### 【お問い合わせ】

消費税軽減税率・インボイス制度電話相談センター

フリーダイヤル：0120-205-553（無料） 受付時間：9：00～17：00（土日祝除く）



## 統計データ



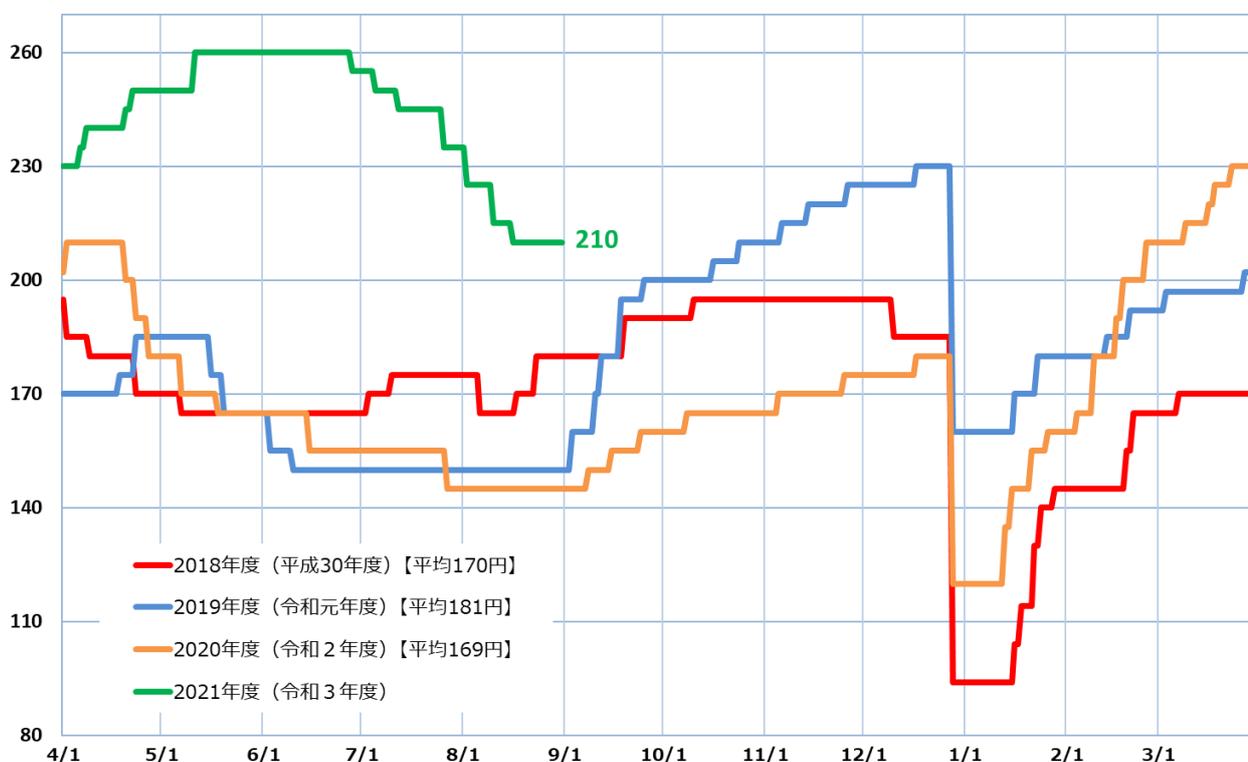
### 鶏卵相場動向 — 過去10年間の8月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成24年	157	181	149
平成25年	175	213	162
平成26年	192	228	179
平成27年	219	253	204
平成28年	180	198	174
平成29年	182	205	171
平成30年	172	198	159
令和元年	150	168	144
令和2年	145	165	139
令和3年	215	245	204
平均値	179	205	169

令和3年8月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値 245 円は、過去10年の平均値 205 円を 40 円上回り、安値 204 円は、過去10年の平均値 169 円を 35 円上回っています。



### 鶏卵相場推移 2018年度～2021年度 東京全農Mサイズ 円/kg



8月は7月から引き続き下落傾向で推移していますが、ここに来て210円で底堅い動きを見せています。



## 鶏卵関係主要計数 —— 令和3年6月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(g)	前年比	前年	本年
2年 7月	9,863	100.2%	484	98.5%	966	108.4%	150	153
8月	8,298	104.2%	444	97.2%	931	107.1%	150	145
9月	8,025	89.6%	456	101.6%	908	104.8%	179	153
10月	8,978	100.1%	489	98.4%	983	105.8%	204	164
11月	8,950	93.3%	472	96.2%	949	107.8%	219	171
12月	8,602	97.0%	529	100.4%	1,007	109.8%	227	178
3年 1月	8,518	83.9%	450	93.4%	951	115.0%	170	142
2月	8,892	104.5%	440	92.8%	920	99.4%	185	183
3月	9,040	89.4%	507	101.1%	943	93.0%	197	220
4月	9,654	103.9%	476	94.5%	978	94.4%	202	241
5月	9,183	95.6%	464	97.5%	1,004	97.4%	168	258
6月	10,083	107.8%	476	100.9%	882	94.3%	160	259
1年間合計 平均(%)	108,086	97.5%	5,687	97.7%	11,422	103.1%	184(平均)	189(平均)

- ・雛餌付羽数は、10,083千羽（前年比107.8%）と前年比7.8%増となりました。
- ・配合飼料出荷量は、476千トン（前年比100.9%）と前年比0.9%増となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、882グラム（前年比94.3%）と前年比5.7%減となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の99円高を示しました。

## 協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

- ① 価格差補填事業の事業参加者との ② 令和3年度8月 標準取引価格 217.67円/kg  
契約数量（トン/月当たり）

平成30年度	169,171
令和元年度	167,141
令和2年度	163,160
令和3年度	153,391

- ③ 鶏卵価格差補填事業  
補填基準価格 181円/kg  
安定基準価格 159円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会  
〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)  
Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2021年9月3日  
編集・発行責任者：浅木 仁志(info@jpa.or.jp)